13
2934
2

2934
2

昭和九年
七月九日購求

滑稽雜談 伊勢土産二見盃下之巻

童戯人 鯉丈編

帝国図書館

さて川役どもの安きとこりゑ生をこうまを
だんくむづかしくいひける川「生花」こもマジ
まこの毒の盗人の悪名をつけらまそこ其分
あへるらね是「イナ。マア。おもきん分
の通り。みんなの辞とりのりんごうら。きこと
ね。まうこく毒のりこと通り。宗川とナれ

げんでいるぶんぶんぱっぱっ。何か生物といふ奴
たちらっぱげるぶんぶんぱっぱっ。川「イヤ何ト
おりこのぶけへるぶんぶんぱっぱっ。そして金銭で渡せといひ
出しこの書状を渡ず　序「ナニ書状ではあるめ
外の川級へおとらら来てゐる人がいのかもしれぬ　序「ア
そなたはどこでもいくことして川「うんゆやくるの
くの盗人の悪名　序「ハテ何ことをいふやらん
おでて名乗りてくんな世人。おのれがきのうの
より。ぶっぶんぶんぶんちゃくとうるさ。あるあるり
あるり留でいるようすをそーっとうけ見ば寝ぶ
外連中をつれ川縁へ行くが和らう辛すぐり
中へたのりよりくく出ると三人の私宅をとらん。
屋敷を落れ川縁へ義合さすが拵づらの屋
敷も連中へめんぐくるる。何らぐぐくまけおく
ないひるぐらみるくく同よ川を越ーとこ
めーてあくるどよ六郎といふ悪いこう。

茶屋を見たりけ　空「ゑんとでぷく角にて行ぷ。
ぶいのうまで代孫よあるくのご　仕お「おぢのねへ
今月八乗合乃ぐでいくぶらぶ。ぶす急ぐ浜八
ねへヲイおりゝさん。ちやく〳〵　空「ぶおまんち　空「仕の
きこきのこ風よ鶏くらぶを出ふぷコレちやく
却ろおるまんくといのよハ。おえきんとい旦あ
角ぶりねへハ　仕お「おまをどのものがそれ式の
変よゆろうねへ。おまハねへがおまをとろうく

言ふまをたろふよハ。頭ぶ江戸でハを絹でいの
巳てうど伊勢のの新よあの屋敷ぶそまる江
戸ようハよろぷど上方へまゆろうら。ソ江戸を
おりゝきんと。みぐぶろくいろて下のあくろく
きんうと長いをうを糸ぶんでこうぷいハサ
すぐて後のある人のいの言葉ハ後とぐくこと
へふぐぎだ。まをハろくあのらを初てぶと聲
づも。へあま世へぶるけまぶでまでよ孔子ま者人

ハ居ねぐら名所を知る。まもんハ大猫のまく
へすることハ是てハ。へ見ることそ初めてゞけれど。
元日ハ六郡余州名所古蹟ハいつもきらぬ
の方ハ云用ハ牛の山度十八町石の宮殿者
根の私　注「コンサちの」と鳥をたのてあぐらッ
ゝ。アあるまの口ゞ　車ヤ「そーて」あゞさあるゝ。
のまねくのゝ　仕ハ「ヨツ〳〵どまるよアツ〳〵ヱてとんゞ
所へ来ておいさめのゞヨイ〳〵ッたの沒平ーて

こんなまて　茶安「ハイく。ヨてせうゝゝやあるまかけゞハ
ゑきらねゝるのみ　唐「ナニあんゞゑきんゑ。あのゝ
らのみ変でゞゞくとまきるふゝゝ長のゝ中
少ゝてゝ元ようゝゝまゞゞのを面とゝくてゝまの
ひらの沒ハ。ゝ変絶きんゝうけつけねく場ゝゞ。
仕ハ「ゝンゑんとでもいつてゝをけゝるせんゞのを
高沒ハあくまゝ且沒ゞゞ。ゞゞ縁ゝあゞでもゝあゝ。
江戸でゝゝとゝあゝて。猿へゞ猿ゝ猿ゝ猿ゝ

なんもの、
いさり
ませめ

海のうらき
たち波
の
都とちるらん
紅葉園
百潮

体ばかり聞くべき事もあんの泊りもくでいるさけを好と
たがるる女どもあるまうこと事こと接ぶさるのうまよ
いのの佐和「ゑんよヨ。定時すいきハほうせねへ。お
めへこちハ表ばりようらゆむけ且ど。ひ月よ成
てんなよりのぶと本仮るものごと。ひ家よ接
をかけ居る馬士家ばかりをすゑめて居
ちがひ。ひのちるをいて。不良なる顔をして。ヲイと
たち表のうへで助ばら佐和「ばかつが鄭とぎろ

ぎろ見て馬士「へンあるまりそよでもあるまの
いへばら出て彩屋「ハ〳〵〳〵ありつハ大物でき
成わど佐和公がつらでおいのを実よ嘆て
ハちやくよさする名ぎ佐和「チヨッいまくしの。
るまでご。ヲイあを出ん喰ものハ鄭子半りうそ
隣があるごろう。ぼう五ッくんをせ茶ハアあ
おごりませんゴチ佐和「何甘くるくてもめ。ぼし
輝ハあつちよあ。ヲイ供公荷の上げ蓋の方

ゴザ稲ぐあるちゃ。ちょっと。ちょーてくんさかみきんと
ゆんどうでもはの手ばり。焼てゴザーるせん　茶「ハアー
何ナ　佐和「焼をよ　茶「イヤあるーるのでござ
ーまス　佐和「いくまちょ稲ぐあるら　茶「イヤ
イナちっともあるのでおりますぐナ　佐和「ハテサ
ヨりの不多ぐ甘くるくても。コレこの稲ぐ分
つけるらいくとりのよ。こ客ぐらをんて　茶「
多するうちぐり。ぐあ仕反中でうゆ切れを

あらゆて居るらら。あ。ぐ。りたぐの人のつり
でゴザーるせん　茶「イヤそーうちっこでパ。もう
からちっともあるもいいこさんのでおりまス　佐和「ハテ
あぐまっつて。ヨイあもつけれ白い焼でいくと
いつのわりらられくつ空「ハ。ああっくあっくぐ。
ちゃあぐまっられくの本家ゆちぐパ　佐和「ヱモ
そまぐこちのてあんまりとぐまっつてくうらよー
空「ヨ下ろうく　佐和「ぐまっとれっつてくハサ。焼ハれくを

いのかぎ。ぶ。種はあるもちよあるの何もつけ
ねへでいのこ。コウヨロクラ丸ゆうハ丸へ 茶
でも解いあるぶ甘うるのとりくらよ。香 うを
をつ刀。解ハ丸のとハいまれへあもハるひと
刀ぷ。ウクろみさん 茶 ハアもでるまりすヲ
茶 ハクあんもハねへとりのコアまりい茶
よのぶ。きんがあきーくいをとうを。あへもいく
手をまで。あんもでもあるあへ浜でハ出ろ

今の子供のいへ言葉でパンあんまとりハ
あるあへ 唐 ハ丸へあんもとりハ手でうけてもあ
もとりの茶ぬるうきこでれへハ。あれくら上方 編
でハぶ。こんりても。百歳よりもあんまとりハ
ヘンそまでも。新人ハ居ぶら番外をあるも 堅 三
のかぶ言国のまり。アるわどこまりいりぶ 東 三
の堅殿十八町ッ 珠 「まもらん」天猫あのもくするる
茶 「ヲヨッのあへまもの。あまこぶ。あるこ元よして。

あるまさ世ゆうがる。あるひ
所のふうぐとりて。隣とのあるがりえんるも
あるあるこひとられ押合ッていのうちあるくるる
いりて居らるるもれ。隣ハねくとりぐ一口で見ろる
まぐ。そこ刑上方ものハ見ぐ片まぐりいの
ん世ふ。仕事のまを尾とこぐあるよ宝て乳
ろこれもとぐるあのきろくまくり。湯ぐこぐて
きく。せんとう屋のるくとぐ猫と寄ゴ乳と

おりえたるもこぐふもれ。きるあ月らぐよ。コウ
かみきん。おまぐ隣とりぐ。あもとりをまハ酒
ぐ隣とりるくハ。ぐろぐ隣とりるくハ酱
ようの法変り。空コウ雨龍ぐきくこうもちるくし。仏
もちろ。たぐ変ろうらぐ。ねくまハ先生ー
まけ疲。ぐ。まぐナハ〳〵。サクく出ろけるく。
酒屋さんや玉公ヲや東七きんもきんくるこそぐ。
屠あんまり仏和公ぐ考ぐりぐ。ぐ。ぐ。

まて氣はけがあて。そこまで。ひきうけ。漢もきまんが世話
あるのうへ。どのすうらねへ。茶屋紙べエ〳〵。佐藤ヲイ
お茶屋さまと。茶「ハイ〳〵ヲヲ。茶屋ヲヲ。サヨウ
あらゝ。機嫌さま。あまいはあの茶代をまあまあ
おぎりますすトてはねのよ。はいの。住吉屋源よ源
〳〵。中ま。同ぞろへ。西ま。上方。同者ヲ。ヨウ。
三人。寄めの。女づま。馬うまうまあんどまうて。
大世のまを〳〵つまて。来る。おきて。ヲヲ。ヲイ

ヲヲ。ヲヲ。イヤを。あゝヲヲ。ヲヲ。同行「ヲよヲヲ。
いと世ま。いろヲまヲまあまて。まヲ。ヲヲ。人まきの。
のヲとヲヲ。同行「サきまとまを世ま。よヲいんやまありや
ヲまや。あままいサ。やヲよヲいのとヲヲヲ。茶「ヲンいけ
ヲよ〳〵。いやり〳〵。ヲナヲ。うねら手り。歩
ヲ。ヲヲ。ヲヲ。ヲヲ。同者ハきまを。つぶ〳〵
行。ヲヲ。ヲヲ。ヲヲ。ヲヲ。ヲヲ。ヲヲ。ヲヲ。
ヲ。「東のあづまどすや。ヲヲ。おちまう。ヲヲ

あそこへ通りゆく人も見えまる
あんまり早苗まねぐ上方ごとありておとま
きいのめだりハねへどどでそんぐ用お逢のぐ
ろか空「そよよ鶯いくせよ早苗みくるぐ佐和「そ」
だとりつて。あんまりむねッくそのうるとのあうくぐ。
あ方へ寿場が雪川で中年ぐりぐ十四五の娘でチ。
アノ年とまらんで行。早年まるの青鮫めはて。
髪屋のかくとをたるよりるくうまのちろの

姫良ぐ勢よくはれ。外のぐらくこどもハ江戸居
てまもるく勢くハ四ハねへぐ 濃青「なぜつき遊ぐす
きこの 佐和「十四二 屋「そそそどのしこのぐ 佐和「アアア
おあ陸す立藤丸ハうとのぐアノふくりの年
場ノ。そまくく今ぐりむのこあうよ元年接て
三ろちろそ三ろ十四ぐ中ろるありぐ。アノ姫良の喧
アでくくうよ名ハ表といく。ひとりの
おぐごくく大年場ぐ。アノ姫のあうくぐ。うちムくと

古事に
謎の発
常闇も
明るあらたを
みちく
の姿
秋光亭
月照

いまそこでアノ娘めがソレ位イせエのうまれどうまれ
ヨイあるいそうどうのこゑとあらうアのうゝ木きまう
くうらうあイ　空「サアく　身ぶるつ紀とるりさた
まらねく〳〵　車「あれ主人徒衆の人ぶぎろう
見るハみッともねく　モウいくうげんよきろ　せエナ
各「そのくよロでいのそすこるる夏ごまそまぶどく
ちこ　孫「ユそ〳〵ぎまッエ　えまぐこるらねくのうアノ
早ぎりのみらうめぐうたくーいくらけをぎろ

ヨるれちげくねくぶそまぐこるらこよきるろて　淺「ア
ハ〳〵ハくそぐるけぐ行遠ようんてこるろて　紀
子ダカ兄弟ごろ言まるるめろ　空「そのようやそれ
みまちろ大きまあ世話いらね甚助ぐ　孫「まれぐ
めどのりでもらぶちろとまたとうですちて
いるこ　親子ノをする　長ぐ　唐「親子でも兄弟でも安
兄男とそぶくよるくキャッぐくとうてそうぐーい
ヘンよく　少まこ　猿ぐハ〳〵トいのうろり　主「且

那方新茶屋まで、ぶらぶらぶら

人世居「ヒラ寺迄まで」「ぐら」「百ハ」「ぐらう」
ぜぐ」る「ぞぞ」「ぞ」「一人」「人」「寺」「ぐ」「ぐ」「ぐ」
里馬ぐ。あまり「ぞ」「ぞ」「ぞ」「ぞ」「ぞ」「ぞ」「ぞ」「ぞ」
ぐ〜〜百寺五ろ「ぞ」の「ぐ」「ぐ」「ぐ」「ぐ」「ぐ」「ぐ」「ぐ」
高ぐ「ぞ」「ぞ」「ぞ」「ぞ」「ぞ」「ぞ」「ぞ」「ぞ」「ぞ」
里まま馬〜〜〜